

自立活動流れ図

学部・学年	
障害の種類・程度や状態等	

1 障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等についての情報収集

実態把握の視点	<input type="checkbox"/> 学習面(聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する等) <input type="checkbox"/> 運動面(粗大運動、微細運動等) <input type="checkbox"/> 社会性(コミュニケーション、人との関わり、自制、意思決定、自己理解等) <input type="checkbox"/> その他(興味関心、身辺自立、注意、多動性、衝動性、感覚の偏りなど)	
	興味・関心、よさ	課題

2 -1収集した情報(①)を自立活動の6区分の視点で整理する段階
 ※ ①の実態を6区分で整理し、①で取りこぼした実態があれば、追加する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

2 -2収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階

--

2 -3収集した情報(①)を〇〇年後の姿から整理する段階

--

3 ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階

--

4 ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	5 ④に基づき設定した指導目標を記す段階

指導目標を達成するために必要な項目の選定	6 ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

7 項目と項目を関連付ける際のポイント

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	8 具体的な指導内容を設定する段階			
	ア	イ	ウ	エ

9 授業計画の作成(指導場面:だれが、いつどのように)		
目立活動の時間	各教科等の指導(教育活動全体)	左以外の時間

この項目は参考例です。
児童生徒の実態に応じて
設定してください。